

概 況

高梁市の概況

1	高梁市消防の沿革	1 ~ 7
2	消防本部・署庁舎	8
3	世帯数・人口・面積	8
4	消防力の整備指針に関する基準数と現有数	9
5	現有消防力の比較	9

1 高梁市消防の沿革

- 昭和29年 近接1町8村が合併し、高梁市消防団が結成され、9分団が設けられた。
- 昭和30年 近接中井村が編入され、高梁市消防団中井分団となる。(1団、10分団、団員2,000名)
消防ポンプ自動車1台購入。(小型動力ポンプ38台、腕用ポンプ29台)
- 昭和35年 消防団員定数1,780名とする。
- 昭和36年 消防ポンプ自動車増強配置。(団員定数1,700名)
- 昭和37年 市街地消防水利増強のため公設消火栓設置。(61ヶ所)
(団員定数1,500名)
- 昭和40年 高梁市消防団常備部を設け、消防体制を強化した。
(消防団員定数1,200名)
新見市、昭和町、北房町、有漢町、賀陽町、成羽町と消防相互応援協定締結。
- 昭和41年 政令指定により消防本部・署設置、消防職員定数18名とし実員16名で発足。(消防長 助役兼務)
常備部を廃止した。(団員定数1,000名)
市長部局から1名出向 実員17名
赤バイ(ホンダ300cc)消防署配置。(高梁ライオンズクラブ 寄贈)
- 昭和42年 職員1名退職・2名採用 実員18名
消防ポンプ自動車(A2級)消防署配置。(日本損害保険協会寄贈)
- 昭和43年 消防職員定数21名とする。
職員3名採用 実員21名
- 昭和44年 消防職員定数30名とする。
職員1名退職・4名採用・市長部局から1名出向 実員24名
小型動力ポンプ積載車消防署配置。
- 昭和45年 職員1名退職・3名採用 実員26名
救急自動車消防署配置。(日本自動車工業会寄贈)
消防団機動化のため小型動力ポンプ積載車10台購入配置。(消防団)

- 昭和45年 消防団の部の統合を行い54部を31部にする。(団員定数780名)
- 昭和46年 消防本部、消防署庁舎完成。
兼任職員3名を解き、7名採用 実員30名
小型動力ポンプ積載車2台配置。(消防団)
消防指令車(トヨタ クラウン 2,000cc)消防署配置。
無線局開局。(基地局・陸上移動局)
- 昭和47年 市長部局へ1名出向・1名採用・(消防長 市長兼務) 実員30名
総社市と消防相互応援協定締結。
広報車消防署配置。(高梁危険物安全協会寄贈)
小型動力ポンプ積載車3台配置。(消防団)
化学消防ポンプ自動車(薬剤500リットル、水2,000リットル積載)消防署配置。
集中豪雨による高梁川氾濫に際し、地区住民の避難誘導及び復旧作業に従事活躍した。
- 昭和48年 市長部局へ1名出向 実員29名
小型動力ポンプ4台更新。(消防団)
小型動力ポンプ積載車3台配置。(消防団)
消防ポンプ自動車(A2級)更新、消防署配置。
- 昭和49年 小型動力ポンプ7台更新。(消防団)
小型動力ポンプ積載車消防署配置。
小型動力ポンプ積載車3台配置。(消防団)
職員1名退職 実員28名
- 昭和50年 職員1名採用 実員29名
消防ポンプ自動車消防署配置。(日本損害保険協会寄贈)
屈折はしご付消防ポンプ自動車(15メートル級)消防署配置。
落合分団第2部を高梁分団第4部に編入した。
消防団員定数750名とする。(1団、10分団、28部)
- 昭和51年 救急自動車(2B型)消防署配置、2台となる。(県共済農協連寄贈)
消防訓練塔建設。
- 昭和52年 小型動力ポンプ積載車2台配置。(消防団)
小型動力ポンプ(B-3級)3台更新。(消防団)
- 昭和53年 職員1名採用 実員30名

- 昭和54年 広域救急業務受託開始。(有漢町、賀陽町、成羽町、川上町、備中町) 消防職員定数37名とする。
職員1名退職・2名採用・(消防長 市長兼務を解く) 実員31名
救急自動車(2B型)消防署配置、3台となる。(日本損害保険協会寄贈)
救急指令装置(NEC B型)設置。
松原町陣山 無線中継基地局開局。
固定局2局、基地局2局、陸上移動局(車載8・携帯6)
- 昭和55年 職員6名採用 実員37名
指令広報車消防署配置。(日本消防協会寄贈)
- 昭和56年 救急自動車(2B型)更新、消防署配置。(県共済農協連寄贈)
救助工作車(照明灯付)消防署配置。
- 昭和58年 職員1名退職 実員36名
小型動力ポンプ3台更新。(消防団)
- 昭和59年 消防事務の事務委託に関する規約制定、上房郡有漢町、賀陽町、川上郡成羽町、川上町及び備中町の消防事務を受諾した。
消防職員定数65名とする。
消防職員24名採用 実員60名
消防庁舎増築。(救急車庫、食堂、署事務室)
小型動力ポンプ積載車消防署配置、2台となる。
10月1日広域消防業務を開始。
- 昭和60年 職員2名退職・5名採用・市長部局から1名出向 実員64名
小型動力ポンプ(B-3級)2台更新。(消防団)
消防ポンプ自動車(CD-型、A2級)消防署配置。
消防団員定数700名とする。(1団、10分団、28部)
阿新広域事務組合(新見地区消防本部)、真庭広域連合消防本部、井原地区消防組合消防本部と消防相互応援協定締結。
査察車(ニッサン ブルーバード 1,600cc)消防署配置。
- 昭和61年 指令車(ニッサン ローレル 1,800cc)消防署配置。
圧縮空気製造施設(高圧空気充填所)設置。
小型動力ポンプ積載車2台配置。(消防団)
赤バイ(ヤマハ 250cc)消防署配置。(高梁ライオンスクラブ寄贈)
中井分団第2部を第1部に編入、高倉分団第3部を第1部に編入し、1団、10分団、26部となる。

- 昭和 6 1 年 救急自動車（2 B 型）更新、消防署配置。（県共済農協連寄贈）
高梁市消防団ラッパ隊結成。
- 昭和 6 2 年 職員 1 名採用 実員 6 5 名
小型動力ポンプ積載車 2 台配置。（消防団）
小型動力ポンプ（B - 3 級）2 台更新。（消防団）
第34回岡山県消防操法訓練大会を桔梗緑地グラウンドで開催。
- 昭和 6 3 年 消防本部、機構改革による課制の導入。
小型動力ポンプ（B - 3 級）2 台更新。（消防団）
小型動力ポンプ積載車 4 台更新配置。（消防団）
玉川分団第 2 部を第 1 部に編入、1 団、1 0 分団、2 5 部となる。
消防ポンプ自動車（B D - 型、A 1 級）更新、消防署配置。
（日本損害保険協会寄贈）
化学消防ポンプ自動車（ 型）更新、消防署配置。
指令広報車消防署配置。（日本消防協会寄贈）
- 平成 元年 職員 2 名退職・1 名採用・市長部局から 1 名出向 実員 6 5 名
防火広報車消防署配置。（日本防火協会寄贈）
小型動力ポンプ（B - 3 級）2 台更新。（消防団）
小型動力ポンプ積載車 4 台更新配置。（消防団）
- 平成 2 年 職員 4 名退職・市長部局から 1 名出向 実員 6 2 名
救急自動車（2 B 型）更新、消防署配置。（山ノ内製薬株式会社寄贈）
小型動力ポンプ積載車 4 台更新配置。（消防団）
小型動力ポンプ（B - 3 級）2 台更新。（消防団）
岡山県下消防相互応援協定締結。
- 平成 3 年 小型動力ポンプ積載車更新、消防署配置。
小型動力ポンプ積載車 3 台更新、1 台増強配置。（消防団）
小型動力ポンプ（B - 3 級）1 台更新、1 台増強。（消防団）
- 平成 4 年 職員 1 名採用・市長部局へ 1 名出向・市長部局から 1 名出向 実員 6 3 名
消防ポンプ自動車（C D - 型、A 1 級）更新、消防署配置。
小型動力ポンプ積載車 3 台更新、1 台増強配置。（消防団）
小型動力ポンプ（B - 3 級）2 台更新。（消防団）
- 平成 5 年 救急自動車（2 B 型）更新、消防署配置。（日本消防協会寄贈）

- 平成 5 年 小型動力ポンプ積載車 3 台更新配置。(消防団)
小型動力ポンプ(B - 3 級) 2 台更新。(消防団)
- 平成 6 年 消防団員定数 6 5 0 名とする。(1 団、1 0 分団、2 5 部)
小型動力ポンプ積載車 2 台更新配置。(消防団)
小型動力ポンプ(B - 3 級) 2 台更新。(消防団)
岡山県防災行政通信ネットワーク(衛星系)運用開始。
- 平成 7 年 「阪神・淡路大震災」に消防隊・救助隊として 4 3 日間、延べ人員 1 1 4 名の職員が出動した。
職員 2 名退職・2 名採用・市長部局から 1 名出向 実員 6 4 名
はしご付消防ポンプ自動車(1 5 メートル級)更新、消防署配置。
機構改革の一部改正により、消防本部警防課を予防課と名称変更した。
消防庁舎北側敷地拡張 1, 0 3 4 . 1 m²となる。
緊急消防援助隊発足。
福山地区消防組合消防局と消防相互応援協定締結。
小型動力ポンプ(B - 3 級) 2 台更新。(消防団)
救急自動車(2 B 型)更新、消防署配置。(県共済農協連寄贈)
- 平成 8 年 消防無線施設更新。(消防本部固定局・基地局、陣山固定局・基地局)
通信指令室増築、機械室新設。
消防緊急通信指令施設更新、 型を導入。
水槽車(3 . 8 トン)を購入配置。
指令 1 号車(マツダ ファミリア 1,500cc)更新、消防署配置。
小型動力ポンプ(B - 3 級) 2 台更新。(消防団)
高梁圏域救急医療対策協議会設立。
- 平成 9 年 岡山自動車道集団事故災害訓練実施。
岡山市消防局・総社市消防本部・真庭消防組合消防本部と岡山自動車道消防相互応援協定締結。
救急救命士資格取得、第 1 号誕生。
- 平成 1 0 年 職員 1 名退職・(消防長 助役兼務) 実員 6 3 名
中国・四国ブロック緊急消防援助隊合同訓練参加(岡山市操車場跡地)
広報 1 号車(ニッサン 1,500cc)更新、消防署配置。
救助工作車 型(日野 8,000cc)更新、消防署配置。
岡山県災害救急医療情報システム運用開始。

- 平成10年 小型動力ポンプ（B - 3級）2台更新。（消防団）
救急救命士資格取得、2名（計3名）
日本消防協会 表彰旗 受章（平成10年3月7日）
- 平成11年 職員1名退職・2名採用 実員64名
指令2号車（いすゞ ピックホーン 3,000cc）更新、消防署配置。
（日本消防協会寄贈）
救急救命士資格取得、1名（計4名）
小型動力ポンプ（B - 3級）2台更新。（消防団）
高規格救急自動車（トヨタ 3,400cc）消防署配置、運用開始。
資機材搬送車（いすゞ 3,150cc）消防署配置。
消防庁長官 竿頭綬 受章（平成11年3月5日）
消防庁舎耐震補強工事及び救急滅菌室増設工事（平成11年3月30日完成）
- 平成12年 職員2名退職・2名採用・（消防長 助役兼務を解く） 実員64名
救急救命士資格取得、1名（計5名）
消防ポンプ自動車（CD - 型、A2級）更新、消防署配置。
小型動力ポンプ積載車2台更新配置。（消防団）
小型動力ポンプ積載車更新、消防署配置。
小型動力ポンプ（B - 3級）1台更新、消防署配置。
- 平成13年 救急救命士資格取得、1名（計6名）
消防無線周波数取得に伴い携帯無線機（1W）3台配備（消防団）
小型動力ポンプ（B - 3級）2台更新（消防団）
小型動力ポンプ（B - 3級）1台返納（消防団）
消防庁舎高圧受変電設備及び冷房設備工事
- 平成14年 高梁市消防団 日本消防協会 竿頭綬 受章（平成14年2月8日）
救急救命士資格取得 1名（計7名）
小型動力ポンプ（B - 3級）2台更新（消防団）
携帯無線機（1W）2台配備（消防団）
- 平成15年 高規格救急自動車（トヨタ 3,400cc）消防署配置（2Bを更新）
高規格救急車 計2台
広報2号車（トヨタ ハイエース 2,000cc）更新、消防署配置。
救急救命士資格取得 1名（計8名）
小型動力ポンプ（B - 3級）2台更新（消防団）

- 平成16年 10月1日 市町合併により「新高梁市」誕生。(旧高梁市・旧有漢町・旧成羽町・旧川上町・旧備中町)
 機構改革の一部改正により、消防本部予防課を警防課と名称変更した。
 高梁市消防団は1団・5方面隊・24分団・69部、団員1,591名
 (条例定数1,610名)となる。
 指揮車 更新 有漢方面隊本部
 小型動力ポンプ付積載車 更新 有漢方面隊 有漢中央分団第2部
 消防ポンプ自動車 更新 成羽方面隊 自動車分団第2部
- 平成17年 小型動力ポンプ積載車(積載1号車)更新 消防署配備
 救急救命士資格取得 1名(計9名)
 消防緊急通信指令施設 携帯電話119番受信改修工事
 自動体外式除細動器(AED)2相性 2台 購入(救急車へ配備)
- 平成18年 消防ポンプ自動車(消防3号車)更新 消防署配備
 乗用車 更新 消防署配備
 救急救命士資格取得 1名(計10名)
 認定救急救命士(気管挿管)取得 3名
 積載車 更新 成羽方面隊 成羽分団第5部
- 平成19年 圧縮空気製造設備(移動式)更新
 自動車分団器庫 移設 川上方面隊
 高梁市消防署 西分駐所開所(平成19年4月1日)
 高規格救急自動車(トヨタ 2,700cc)更新(2Bを更新)西分駐所配備 計3台
 消防無線前進基地局整備(西分駐所)
 女性消防団員入団(25名)
 高梁分団第2部器庫 移設 高梁方面隊
 救急救命士資格取得 1名(計11名)
 認定救急救命士(気管挿管)取得 1名(計4名)
 救急救命士(薬剤投与)取得 2名
- 平成20年 日本消防協会特別表彰 まとい 受章
 高機能消防通信指令施設整備
 救急救命士資格取得 1名(計12名)
 救急救命士(薬剤投与)取得 3名
 災害対応特殊化学消防ポンプ自動車 更新 消防署配備
- 平成21年 小型動力ポンプ付積載車 更新 高梁方面隊 巨瀬分団第1部
 小型動力ポンプ積載車 3台更新 高梁方面隊 中井分団第3部
 成羽方面隊 成羽分団第2部・第3部

2 消防本部・署庁舎

名 称 高梁市消防本部 ・ 署
 所 在 地 〒716-0046 岡山県高梁市横町1693-1
 T E L (0866) 21-0119 F A X (0866) 21-0130
 位 置 北緯 34度47分 東経 133度37分
 敷地面積 1,034.1 m²

年月日		区分	建築面積 (m ²)	延面積 (m ²)	構 造
建 築 年月日	昭和46年3月31日		545.17	1,220.88	鉄筋コンクリート造 3階建
増 築 年月日	昭和59年9月21日		141.98	401.60	鉄骨造3階建
	平成7年11月10日		9.92	9.92	鉄骨造
計			697.07	1,632.40	

(1) 分駐所

名 称 高梁市消防署 西分駐所
 所 在 地 〒716-0304 岡山県高梁市備中町布賀29番地2
 T E L (0866) 45-9909 F A X (0866) 45-9910
 位 置 北緯 34度47分 東経 133度27分

年月日		区分	建築面積 (m ²)	延面積 (m ²)	構 造
建 築 年月日	平成19年3月22日		189.05	189.05	鉄骨造瓦葺平屋建

3 世帯数・人口・面積

平成21年4月1日現在

地域別	区分	世帯数	人 口	面積(Km ²)	備 考 (外国人)
計		13,856	35,164	547.01	(590)
高梁地域		8,442	21,097	228.98	-
有漢地域		929	2,568	46.69	-
成羽地域		2,064	5,313	81.87	-
川上地域		1,315	3,543	86.91	-
備中地域		1,106	2,643	102.56	-

(外国人含む) 総人口 35,164人

4 消防力の整備指針と現有数

(平成21年4月1日現在)

区 分		整備指針	現 有 数
署 所 の 数		2	2
消 防 ポ ン プ 自 動 車		3	3
高 規 格 救 急 車		3	3
はしご付き消防ポンプ自動車		1	1
化学消防ポンプ自動車		1	1
救 助 工 作 車		1	1
小 型 動 力 ポ ン プ 積 載 車		1	2
水 槽 車		1	1
資 機 材 搬 送 車		1	1
広 報 車		1	2
指 揮 車		1	2
計		103	64 (62.1%)
消 防 吏 員	警 防 要 員 等	84	42
	救 急 要 員	兼務	兼務
	指 揮 隊 員	乗換	4
	予 防 要 員	7	6
	通 信 要 員	6	6
	庶務処理等の職員	6	6

5 現有消防力の比較

(平成21年4月1日現在)

世帯数・人口・面積	世 帯 数	人 口	面 積(k m ²)
	区 分	13,856	35,164
消 防 職 員 1 人 当 り	217	549	8.55
消 防 車 1 台 当 り	4,619	11,721	182.34